

港区史編さんだより

～ 区民の皆さんと歩み、歴史を語り継ぐ～

発行：港区総務部総務課区史編さん担当

〒105-8511 港区芝公園1-5-25/TEL 03-3578-2049/https://www.city.minato.tokyo.jp/



今号の表紙

昭和42年頃の、豊川稲荷前歩道橋から見た赤坂見附・紀尾井町方面の写真です。カラーテレビや冷房と共に自動車が家庭に普及した昭和40年前後。交通量の増加に対応するため、赤坂見附交差点が立体交差化されました。自動車メーカー各社が新車の開発・販売を競ったため、乗用車を中心に多様な自動車が行き交う一方、昭和レトロの象徴の一つ、オート三輪は1台しか見当たりません。（赤坂見附交差点付近の地形について、詳しくは『港区史』自然編 P10を、青山通りの整備については、『図説 港区の歴史』P241をご覧ください。）



目次

- Zoom Up 編さん過程のヒトコマ P2
- Pick Up 区民インタビューを実施しました P3
- 年表で振り返るあの日・あの時 P4
- 『港区教育史』を3月1日（火）に刊行します . . . P4

史資料調査・撮影を行いました

■増上寺（古代・中世部会） 令和3年10月13日実施



古代・中世部会では、資料編の刊行に向けて、増上寺（芝公園4丁目）が所蔵している聖教類の調査を実施しました。

増上寺は、明徳4年（1393）の創建以来、関東における浄土宗の中心的寺院として盛んに修学活動が行われ、江戸時代には徳川氏の菩提寺となり、数多くの貴重な文化財を有しています。前回の調査（2019年5月23・24日）では、主に典籍や古文書の調査・撮影をさせていただきましたが、今回は法門伝授のための「伝書」と



して重視されている「三卷七書」のうち、「七書」の調査・撮影をさせていただきました。

調査ではまず、原本の形状や紙質、保存状態などを確認し、調書を作成しました。その後、精度の高い翻刻・編集作業を行うため、専門の技術者がサイズや色合いを補整したうえでデジタル撮影を行いました。これら貴重な史料が資料編に載ることで、増上寺の歴史への理解がより深まることが期待されます。

■慶應義塾大学 日吉キャンパス（近代部会） 令和3年10月29日実施

通史編 近代に掲載するための資料撮影を行いました。通史編 近代の本文では、経済の話題として、慶應義塾福澤研究センターの所蔵する「太田屋多田質店の帳簿」を紹介しています。

戦前期、庶民にとって身近な金融機関は質屋でした。質屋は簡単にいうと、品物を預けて少量の貸金を借りる仕組みです。太田屋多田質店は、現在の慶應義塾大学東門部分に店を構えていました。閉店時、店の外に帳簿が捨ててあったそうです。それを見た当時の教授が研究室へ持って帰り、めぐりめぐって保管されることになったのでした。この帳簿からは、戦前の人たちの生活を垣間見ることができます。預け入れた品物が着物から洋服へ変化したり、預ける人の住所や職業によって特徴があったり…

詳しくは、令和4年（2022）3月刊行予定の通史編近代に掲載予定です。おたのしみに。

そのほか、12月20日には梅窓院の板碑の調査を行いました。詳細は次号掲載予定です。

監修者会議を開催しました

令和3年度第3回港区史監修者会議

令和3年11月15日 開催

資料編の刊行概要、版面のレイアウトについて検討を行いました。

令和3年度第4回港区史監修者会議

令和3年12月27日 開催

資料編の刊行スケジュール、版面のレイアウトについて検討を行いました。

両日程について、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインで開催しました。

Pick Up 区民インタビューを実施しました

令和元年度（2019）に始まった区史編さん企画「区民インタビュー」。今年度は、長らく福祉の面で活動されてきた方を中心にインタビューを行います。

トップバッターの金井泰子さん（9月1日撮影）に続き、南かほるさんにお話を伺いました。

南かほるさん（インタビュー実施日：令和3年10月6日）



- ・ NPO 法人 男女平等参画推進みなと (GEM) 副理事長
- ・ みなと 21：女の議会 代表
- ・ 港南防災ネットワーク 副会長 など

長く港南地区に住まれ、幼稚園や小学校のPTA役員を歴任されました。区への働きかけによって港南三丁目遊び場（ママさん広場）が開園したことが「わたしたち主婦でもできるんだ！」という自信となり、その後の活動に繋がっていきました。



平成8年の港区・中央区・墨田区3区合同の女性海外派遣事業に参加し、「男女平等参画」について考えるようになったという南さん。ご自身のこれまでのあゆみと、NPO法人男女平等参画推進みなとでの活動、コロナ禍のいま感じることをお聞きしました。

撮影場所：男女平等参画センター リーブラ

インタビュー映像は、区史編さんサイト「デジタル版 港区のあゆみ」にて、今年度末に公開予定です。

デジタル版 港区のあゆみて？

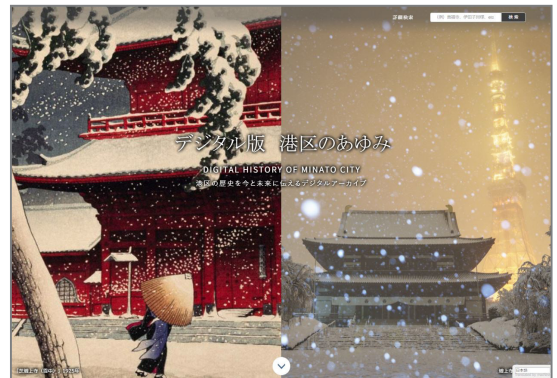
港区の歴史と今と未来をつなげるデジタルアーカイブです。インターネットで、いつでも・どなたでもアクセスできます。

令和元年度（2019）に実施した区民インタビューの映像は、このデジタルアーカイブの「映像でみる港区のあゆみ」からご覧いただけます。

11月30日にはトップページを冬仕様の《雪の中の増上寺》にリニューアルしました。

また、「年表からみる港区のあゆみ」（→P4もご覧ください）に、令和2年度のできごとを追加しました。

是非インターネットでご覧ください。



港区のあゆみ



「デジタル版 港区のあゆみ」では、港区が誕生した昭和22年3月以降のできごとを年表でたどる「年表でみる港区のあゆみ」を公開しています。令和3年11月末には、令和2年度のできごとを追加公開しました。本コーナーでは、年表から出典資料やできごとに関連した資料を紹介します。



■昭和47年（1972）10月14日

鉄道開通 100 年を記念して（鉄道記念日）新橋西口広場に、C11 形蒸気機関車を設置



新橋駅西口広場に設置中の C11 形蒸気機関車（昭和 47 年）

明治5年（1872）に日本初の鉄道が新橋～横浜間に開業してから100周年となる昭和47年、国鉄から港区にC11形蒸気機関車が貸し出され、鉄道発祥の地である新橋の駅前に設置されました。それから50年、今年（令和4年）は新橋～横浜間鉄道開業150周年に当たります。

この形式の機関車は全国各地に配置されましたが、新橋で展示されている車両は主に西日本で27年間活躍し、実は東京を走ったことがありません。しかし、現役時代の2倍近い時間を展示資料として過ごし、今ではすっかり新橋駅前のシンボルです。

『港区教育史』を3月1日（火）に刊行します

港区教育委員会では、港区の地における150年を超える教育のあゆみを体系的に記録し、分かりやすく親しみやすい、後世に語り継いでいける『港区教育史』を編さんしています。今回は、通史編（全9巻）と資料編（全1巻）を刊行し、令和5年3月に11巻目の「くらしと教育編」を刊行予定です。Web版「デジタル港区教育史」でも同時公開します。



刊行記念講演会「港区における地域社会の変容と学校」

明治維新以降、港区域は産業革命や関東大震災、戦時中の空襲、高度経済成長など、激動の歴史をたどってきました。そうした地域社会の変容にともなって、学校教育のあり方も様々な変化を遂げています。今回の講演では、地域社会と学校の間を、教育史編さん過程で見られた貴重な歴史資料を紹介しながら解説します。



講師 小林 正泰 先生

共立女子大学家政学部児童学学科准教授。
東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。
博士（教育学）。主要著書に『関東大震災と「復興小学校」』（勤草書房2012年）など。

日時 3月20日（日）11時30分開演（11時開場、13時終了予定）

対象 どなたでも

会場 伝統文化交流館

定員 会場参加 50名（港区在住・在勤・在学優先で抽選）、
オンライン参加（事前申込要）

参加費 無料

申込み 会場参加：3月8日（火）まで みなとコール 03-5472-3710（受付時間 午前9時～午後5時）
（港区ホームページの申し込みフォームからも申し込みめます。）

オンライン参加：3月15日（火）まで 港区ホームページの申し込みフォームへ

編集後記



早いもので、新元号も4年目の年となりました。3月には、『港区史』通史編 近代を刊行予定です。明治時代からアジア・太平洋戦争下での港区の歴史を、分野ごとにひも解きます。刊行の際には是非お手に取って（またはWebで）ご覧ください。